

KAYOKOYUKI

Piramide Bldg. 2F, 6-6-9 Roppongi, Minato-ku, Tokyo 106-0032
MAIL: info@kayokoyuki.com / TEL: +81(0)3-6873-6306
www.kayokoyuki.com

July 11 - August 29

Opening Reception:
July 11, 18:00-19:30

Summer Holidays:
August 12 - 15

吉村 宗浩
Munehiro Yoshimura

町はずれの幻術
Illusion on Outskirts of Town



吉村 宗浩

Munehiro Yoshimura

町はずれの幻術

Illusions on the Outskirts

2026.7.11 (土) - 8.29 (土)

オープニングレセプション : 7.11 (土) 17:00-19:00

夏季休廊 : 8.12 (水) - 15 (土)

吉村宗浩は、郊外の風景や人物像を主なモチーフとして絵画を制作してきました。森のなかに建つ家、道路沿いの建物、町はずれの道、人々が集う広場。そこに描かれる光景は私たちにとって見覚えのあるものですが、同時にどこか現実から少しずれた不穏な印象を与えます。鮮やかな色彩、不思議な存在感を放つ人物たち、そして説明されることのない物語の気配。吉村の絵画には、親しみやすさと不穏さ、懐かしさと異物感が同時に存在し、見る者はいつの間にかその世界へと引き込まれていきます。

本展のタイトルである「町はずれの幻術」は、作家が過去にも用いてきた言葉です。吉村はインタビューのなかで、「町はずれ」という言葉に、文明の果てや終わりの気配のようなものを重ねていると語っています。それは都市の中心から少し離れた場所に漂う独特の空気への関心といえるでしょう。幹線道路沿いの建物や住宅地の外れ、少し先へ進めば何もなくなってしまいそうな場所。本展に出品される《ピンクの家》《双子の大男の住む町》などにも、そうした感覚が通底しています。そこには日常の延長でありながら、どこか別の世界へとつながっているような感覚が漂っています。

一方で吉村の絵画には、特徴的な人物たちが繰り返し登場します。彼らは決して英雄的な存在ではありません。どこか頼りなく、不器用で、ときに滑稽ですらあります。吉村自身「かつていいものは描きたくない」と語っています。しかし、その眼差しは決して人間を突き放すものではなく、弱さや悲しみ、居心地の悪さを抱えながら生きる人間への親しみや共感、不完全な人間という存在への温かな愛情と軽やかなユーモアによって支えられているように思われるのです。

吉村は、完成した作品であっても何度も描き直してしまうといいます。その理由について本人は「美なんですよ」「いい絵を描こうっていうだけが絵を描いてる目的」と語ります。このような、吉村のまず絵画そのものに向き合うというあまりにも素朴だけれど頑固で誠実な姿勢は、吉村の絵画を考えるうえで特筆すべき点であり、このことは、吉村の作品における物質としての絵画的な強さ、堅牢さの根拠となっているといえます。繰り返し現れるモチーフも、単に物語の登場人物であるだけではなく、絵画という営みそのものを探求する過程のなかで生まれてきた存在であるのかもしれません。また、自分の絵画では「写真的な写実ではなく絵画的な写実を描きたい」とも述べています。西洋絵画への深い関心を背景に、より良い絵画を求めて制作を続けてきた画家の姿勢は、本展の作品群にも通底しています。

ユーモアと悲しみを湛えた吉村の絵画は、世界の片隅にいる誰かのための物語であると同時に、私たち自身の姿を映し出す鏡でもあります。現実と空想、親しみと違和感、美しさと滑稽さ。相反する要素を抱え込みながら、吉村の絵画は私たちを現実と空想のあわいに存在する町はずれへと誘います。見慣れた風景の少し先へ、日常のなかに潜むもうひとつの世界の小さな入口が開かれているのかもしれません。



吉村宗浩 / Munehiro Yoshimura

1961年兵庫県生まれ、在住。1984年神戸商科大学経済学科卒業後、1990年武蔵野美術大学油絵学科 卒業。

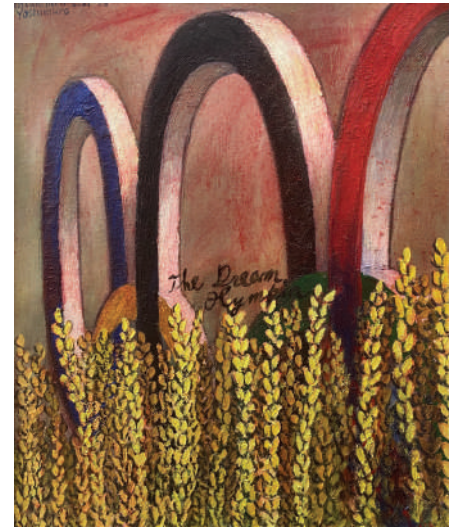
主な展示会に、個展「町はずれの幻術」KAYOKOYUKI (東京、2026)、Blooming show by KAYOKOYUKI OIL by 美術手帖ギャラリー (東京、2025)、個展「町はずれの幻術」gallery of the fine art laboratory gFAL (東京、2024)、個展「画家とアトリエ-メチエの修行場」兵庫県立美術館 (兵庫、2022)、個展「肖像画とアトリエの模様替え」FARO神楽坂 (東京、2019)、個展「吉村宗浩個展」神戸元町歩歩琳堂画廊 (兵庫、2019)、個展「ようこそ人間たち」STUDIOY3 (兵庫、2018)、個展「吉村宗浩個展」櫻木画廊 (東京、2016)、個展「問題神父」888ブックス / パールブックショップ&ギャラリー (東京、2016)、個展「北方の旅行者」6次元 (東京、2013)、個展「悲しみの星」神戸アートビレッジセンター (兵庫、2012) など。



top: 講評会 / *The Critique Session*, 2026, 145.5 x 112 cm

left: ピンクの家 / *Pink House*, 2026, 91 x 72.7 cm

right: トロコ列車 / *Trolley Train*, 2026, 45.5 x 38 cm



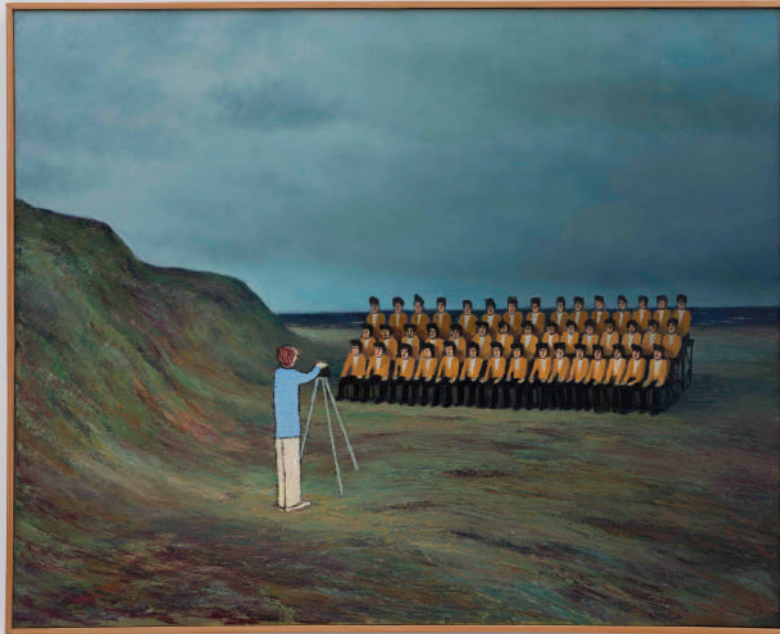
left:
 真夏の試食会 / *The Tasting Session, Midsummer*, 2026, 100 x 80.3 cm
 right:
 憧れのオリンピア / *Yearning for Olympia*, 2025, 45.5 x 38 cm
 bottom:
 双子の大男が住む町 / *The Town Where the Giant Twins Live*, 2026, 91 x 72.7 cm





top: 頭痛 / *The Headache*, 2026, 45.5 x 38 cm

bottom: アトリエの様様替え / *Studio Rearrangement*, 2026, 72.7 x 91 cm



top:

海辺の記念撮影 / Group Portrait by the Sea, 2024, oil on canvas, 91 x 72.7 cm

left:

不動産屋の女 / The Real Estate Woman, 2012 - 2024, oil on canvas, 72.7 x 60.6 cm

right:

病院の改修工事 / Hospital under Renovation, 2022, oil on canvas, 53 x 45.5 cm



top: 砂丘で戯れる教授と大学院生 / Professor and Graduate Student Playing in the Dunes, 2025, oil on canvas, 91 x 72.7 cm

left: 芝生に建つ抽象セット / Abstract Set on the Lawn, 2024 - 2025, oil on canvas, 47 x 40 cm

right: 北方の旅行者 (赤いセーターの女性) / Northern Traveler (Woman in a Red Sweater), 2024 - 2025, panel on canvas, 42.5 x 46.6 cm

吉村 宗浩

1961 兵庫県生まれ

1984 神戸商科大学経済学科卒業

1990 武蔵野美術大学油絵科卒業

兵庫県在住

個展

2026 〈町はずれの幻術〉 KAYOKOYUKI (東京)

2025 〈北方の旅行者〉 櫻木画廊 (東京)

〈Munehiro Yoshimura Solo Exhibition〉 Gallery Woo (釜山)

2024 〈町はずれの幻術〉 Gallery of The Fine Art Laboratory gFAL (東京)

〈ペンギン警察隊の休暇〉 櫻木画廊 (東京)

〈吉村宗浩個展：女人與雪松〉 YIRI ARTS (台北)

2023 〈絶望名人〉 神戸元町歩歩琳堂画廊 (兵庫)

〈パロマー氏と問題神父〉 櫻木画廊 (東京)

2022 〈悲劇的〉 888 ブックス / パールブックショップ&ギャラリー (東京)

〈吉村宗浩 画家とアトリエメチエの修行場〉 兵庫県美術館 (兵庫)

〈農夫と牡鹿〉 櫻木画廊 (東京)

2021 〈家具屋の息子〉 櫻木画廊 (東京)

〈Straight, No Chaser〉 FARO 神楽坂 (東京)

〈雑居時代〉 神戸元町歩歩琳堂画廊 (兵庫)

2020 〈UNREALISM〉 GALLERY NAO (東京)

〈パロマー氏と幻のオリンピック?〉 櫻木画廊 (東京)

〈希望のかなた〉 神戸元町歩歩琳堂画廊 (兵庫)

2019 〈肖像画とアトリエの模様替え〉 FARO 神楽坂 (東京)

個展 神戸元町歩歩琳堂画廊 (兵庫)

〈抽象セット〉 櫻木画廊 (東京)

2018 〈ようこそ人間たち2〉 STUDIO Y3 (兵庫)

〈ようこそ人間たち〉 888 ブックス / パールブックショップ&ギャラリー (東京)

2017 個展 櫻木画廊 (東京)

〈ブレイブニューワールド〉 神戸アートビレッジセンター (兵庫)

〈Love Anyway〉 Fm (東京)

2016 〈問題神父〉 888 ブックス / パールブックショップ&ギャラリー (東京)

個展 櫻木画廊 (東京)

2015 〈ある夢想家の冒険旅行〉 神戸アートビレージセンター (兵庫)

2014 〈町はずれの幻術〉 神戸アートビレージセンター (兵庫)

個展 櫻木画廊 (東京)

2013 〈北方の旅行者〉 6次元 (東京)

2012 〈悲しみの星〉 神戸アートビレージセンター (兵庫)

1991 個展 日比谷画廊 (東京)

グループ展

2026 〈グループ展〉 VINYL GALLERY (東京) Upcoming

2025 〈ニュースペース・プレビュー〉 KAYOKOYUKI (東京)

〈Blooming show by KAYOKOYUKI〉 OIL by 美術手帖ギャラリー (東京)

2024 〈吉村家〉 VINYL GALLERY (東京)

〈仮面の裏側〉 神戸元町歩歩琳堂画廊 (兵庫)

〈Always Imagine 想像常常〉 Gallery Woo (釜山)

2023 〈NEO PAINTING TOKYO 3 [PART2]〉 AKIO NAGASAWA Gallery (東京)

〈静寂のアイロニー〉 VINYL GALLERY (東京)

2022 〈small works〉 FARO 神楽坂 (東京)

〈YOSHIMURA family 2〉 神戸元町歩歩琳堂画廊 (兵庫)

〈YOSHIMURA family〉 神戸元町歩歩琳堂画廊 (兵庫)

2021 〈After Report 『REAL by ArtSticker DAIKANYAMA ART WEEK』〉 代官山ヒルサイドフォーラム (東京)

〈Group Show〉 FARO 神楽坂 (東京)

〈Wise Monkey x 3〉 BIOME (兵庫)

2020 〈絵画祭〉 神戸元町歩歩琳堂画廊 (兵庫)

2019 〈絵画祭〉 神戸元町歩歩琳堂画廊 (兵庫)

2011 〈三人展 ねじれの異界の覗き穴〉 新宿眼科画廊 (東京)

2010 〈ART & PHOTO BOOK EXHIBITION〉 新宿眼科画廊 (東京)

1993 〈二人展 横山裕一・吉村宗浩〉 埼玉県立美術館 (埼玉)

1987 二人展 MATSUO MEGUMI+VOICE GALLERY pfs/w (京都)

受賞歴

2016 イラストレーション第33回ザ・チョイス 優秀賞（玄光社）

イラストレーション第197回ザ・チョイス 入選（玄光社）

2015 イラストレーション第196回ザ・チョイス 入選（玄光社）

2013 BIG MAC AWARD ART CONTEST ファイナリスト受賞（日本マクドナルド）

2012 イラストレーション第29回ザ・チョイス 優秀賞（玄光社）

2011 イラストレーション第179回ザ・チョイス 入選（玄光社）

1995 '95 公募:日本海美術展 入選（富山県立近代美術館）

1994 パルコ・アーバーナード 入選（渋谷パルコ）

1992 第6回FROM A THE.ART 公募作品展 佳作（原宿スピリホール）

1990 TAMON 賞 優秀賞（柏市文化フォーラム）

1989 '89 公募:日本海美術展 入選（富山県立近代美術館）

作品提供

2023 プチ鹿島『教養としてのアントニオ猪木』双葉社 装画

2021 浜口倫太郎『ワラグル』小学館 装画

2020 三谷幸喜『誰かが、見ている』Amazon プライム・ビデオ

2016 ブライアン・エヴンソン、柴田元幸/訳『ウインドアイ』新潮クレスト・ブックス 装画

2014 劇団ペンギンプルペイルパイルズ#18『靴』宣伝広告

2012 演劇『音のいない世界で』宣伝広告 新国立劇場